

令和元年産こがねもち栽培指導基準

JA名: 佐渡

地区名: 全域

栽培形態: 5割減栽培

- この栽培指導基準は安全・安心で高品質な米を生産するために、地域の実態に即してJA佐渡が作成しました。
- 使用する肥料・農薬はJAが推奨する品目ですが、推奨品目以外でも適正な品目については、使用可能です。
- 生産工程管理において、著しくJAの栽培指導を逸脱しているとJAが判断した場合は、「JA米以外の一般米」として取り扱われます。

時期	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
栽培管理	〔種子更新〕 種子消毒(温湯消毒済み) 育苗箱消毒(A)	浸種	育苗床土準備(①、②)	覆土・催芽種子防除(B)	播種	基肥(窒素3kg)または一発基肥施用(④)	耕起	代かき・初期除草剤散布(D)	水田除草剤散布(E)	田植(5日頃)	病害虫防除(C)	ドロオイムシ等苗箱防除(C)	べんとう肥施用(③)	中干し・溝切り	農道畦畔の草刈	いけい酸追肥(⑤)	種肥施用(窒素1.2kg)(⑥)	いもち・紋枯病防除(F)	穂肥施用(窒素1.4kg)(⑦)	飽水管理	カメムシ防除1回目(G)	カメムシ防除2回目(H)	仕上げかん水	落水	収穫	土づくり資材の施用(⑧、⑨)			

※ ①～⑨、A～IIについて、JAが推奨する肥料・農薬は下表を参照願います。(なお、1つの記号に複数品目掲載されている場合、1品目を選択してください。)

■推奨肥料と施肥基準(例:一般的な品目)

記号	肥料名	成分		施肥基準 (kg/10a)	備考
		N	P-K		
①	合成培土3号	床土:2.8kg/箱		56	使用の場合化成0.031kg/10a
	ホーネンス培土	床土:3.0kg/箱		60	使用の場合化成0.028kg/10a
②	育苗床土	覆土:1.2kg/箱		24	
③	べんとう肥	20g/箱 N8%		0.4	
④	越後の輝き有機50元肥	10-13-10-Mg1有機由来窒素51.0%		30	低地力 40kg
	越後の輝き有機50スーパー元肥	12-6-5 有機由来窒素50.8%		40	低地力 45kg
⑤	いけい酸加里プレミア	K20-Mg4-B0.1 ケイサン34		30	
⑥	越後の輝き有機50穂肥	12-2-8 有機由来窒素52.5%		10	N成分合計で 2.6kg以内
⑦	味好2号	7-2-7 有機由来窒素100%		20	
⑧	アグリ革命	酵素による稲わら腐熟促進		2	
⑨	醗酵ケイフン(粒状)	2~3-6~7-3~4		30	低地力地域では ケイフンを同時施用
	粒状ようりん	P20-Mg15 ケイサン20		20	

■推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準(例:一般的な品目)

記号	薬品名	※成分数	農薬使用基準		
			希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数
A	イチバン	-	500倍、瞬時浸漬	播種前	—
B	タフブロック	0	200倍液 24時間浸種	催芽時	—
C	Dr.オリゼフェルテラ粒剤	1	50g/箱	播種時覆土前～移植当日	1回
D	ベアス1キロ粒剤	1	1kg	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ発生始期ただし、移植後30日まで	1回
	ベアスフロアブル		500ml		
E	月光1キロ粒剤	3	1kg	移植直後～ノビエ3葉期 ただし、収穫30日前まで	1回
	月光フロアブル		500ml		
	月光ジャンボ		400g		
F	オリブライト粒剤	1	3~4kg	収穫45日前まで	1回
G	キラップ(粉剤・粒剤・フロアブル)	1	3~4kg・3kg・2000倍	収穫14日前まで	1回
	キラップフロアブル(無人ヘリ)		16倍、800ml		
H	MR. ジョーカー(粉剤・EW)	1	3~4kg・2000倍	(但し、MR. ジョーカー粉剤は7日前まで)	1回

■栽培管理のポイント(例:県水稲重点技術対策より)

- 土づくり・施肥
 - ・作土深は目標値(15cm)を確保し、土壌診断に基づいて堆肥や土づくり資材を施用しましょう。
 - ・基肥は、ほ場の地力の状況を踏まえて、適量を施用しましょう。
- 播種・田植え
 - ・高温下での登熟による品質低下を防ぐため、こがねもちの出穂期が8月5日以降となるよう播種期は4月10日以降、田植期は5月5日頃にしましょう。
- 水管理
 - ・溝切り・中干しは、分けつの発生状況や地力窒素の発現状況を踏まえて、遅れずに(移植後35日をめやすに)実施し、生殖生長への転換(出穂1ヶ月前)までに終了しましょう。
 - ・中干し以降は田面にひび割れを起こさないよう、飽水管理を徹底し、落水期は出穂後30日以降にしましょう。
- 穂肥
 - ・穂肥は、幼穂長や葉色等の推移から生育診断を行って、適期に適量を施用しましょう。
- 収穫
 - ・出穂後の積算温度や籾の黄化程度を確認し、適期に収穫しましょう。(収穫適期のめやす:出穂後日数 42日、積算温度 1000℃)
 - ・登熟期が高温の年は、刈り遅れず、ゆっくり乾燥して、胴割粒の発生を防ぎましょう。
- 選別
 - ・1. 85mm以上のふるい目を用い、適正な流量で、丁寧に選別するとともに、必要に応じて1. 90mmのふるい目や色彩選別機を活用して、品質を高めましょう。

■生産履歴記帳について

- ・栽培管理における各作業日や、肥料・農薬の使用日・使用量等は生産履歴へ記帳しJAへ提出してください。(生産履歴はJAにて3年間保管します。)
- ・生産履歴の提出時期は、8月20日(最終防除終了後)です。
- ・生産履歴記帳とあわせて、種子の保証票(中札)や生産資材の購入伝票を保管しましょう。

■JA米の取り扱いについて

- ・JA米と一般米は区分して収穫・出荷をお願いします。
- ・JA米として出荷された米穀は、JAでの確認後、JA米印が押印され、一般米と区分して取り扱われます。
- ・なお、JAの確認により、JA米の要件を満たさないと判断された米穀は、一般米として取り扱われます。